



日本歯科色彩学会
https://www.jacd-dc.jp

日本歯科色彩学会 ニュースレター

NO.68

日本歯科色彩学会事務局
日本歯科大学 新潟生命歯学部 歯科保存学第2講座 内
〒951-8580 新潟市中央区浜浦町1-8 発行日/2022年3月30日
発行人/新海航一 TEL/090-211-8171 MAIL/jacd@ngt.ndu.ac.jp

会員のメールアドレスを学会事務局宛へお知らせ下さい

第29回日本歯科色彩学会 総会・学術大会のご案内

大会長 新海 航一

(日本歯科大学新潟生命歯学部歯科保存学第2講座)

第29回日本歯科色彩学会 総会・学術大会は、日本歯科大学新潟生命歯学部講堂(新潟市中央区)を会場として令和4年7月30・31日に開催させていただき予定です。昨年末に収まりかけたCOVID-19は、オミクロン株の影響により今年1月上旬から新潟市でも新規感染者数が爆発的に増加し、2月上旬においても200~300人の間で高止まりする状況が続いております。現状では収束への道筋は見えませんが、3回目のワクチン接種が進んでいることと開催日が今から約5か月後であることから徐々に波が収まっていくことを期待し、現地開催を前提に準備を進めております。しかしながら、COVID-19の感染拡大状況によってはWeb開催に方向転換を余儀なくされることもあり得ますので、ご承知おきいただきたいと存じます。

さて、過去の総会・学術大会を顧みますと、第8回総会・学術大会が平成12年7月に、第22回総会・学術大会が平成26年7月に本学・アイヴィホールで開催されましたので、本大会は本学を会場とした3回目の開催となります。大会準備は鈴木雅也準備委員長を中心として株式会社シンセンメディカルコミュニケーションズ様のご支援を得ながら粛々と進めておりますので、会員皆様からのご協力もよろしく

お願いいたします。

今回のメインテーマは「歯科におけるカレント・カラーサイエンス」とさせていただきました。一般的な色彩研究は多領域に及び、いわゆる色彩学は発展の一途をたどっております。しかしながら、歯科における色彩研究は、本邦では近年になってから低迷しているように思われます。世界に目を向けますと、Society for Color and Appearance in Dentistry (SCAD)という「歯科における色彩と外観に特化した国際学術団体」が、2008年に設立されてから活発な学術活動を繰り広げています。そこで、本邦においても本学会が中心となり歯科色彩学を発展させていかなければならないと考え、このようなメインテーマを掲げました。歯科学における色彩研究の対象は、一般的に、歯の色、修復材料の色、歯肉の色の他にも診療室環境の色など、広範囲に及びます。さらに、「色」が患者さんの心理に影響を与えることもあります。そこで、今回は歯冠修復材料の色に特化し、基礎研究サイドと臨床サイドの両面から歯科におけるカラーサイエンスを探求する所存であります。

本大会の日程は、30日の午後に常任理事会、理事・評議員会ならびに総会・表彰式を開催し、夜は会員懇親会を予定しております。31日は午前中に特別講演

1 と会員ポスター発表を、午後は特別講演 2 と講習会 1（講習会委員会企画）と講習会 2（認定士委員会企画）を開催する予定であります。

特別講演 1 では、「歯科材料における色彩研究の潮流（仮）」と題して日本大学歯学部歯科保存学第 I 講座の黒川弘康先生がご講演されます。歯冠修復材料のカラーサイエンスについて基礎研究の面からご解説いただく予定です。特別講演 2 では、「シェードマッチングの臨床テクニック（仮）」と題して大谷歯科クリニックの大谷一紀先生がご講演されます。歯冠修復材料のカラーサイエンスについて修復治療の臨床症例を通してご解説いただく予定です。講習会 1 と 2 の企画については、各担当委員会で検討されました。その結果、講習会 1（講習会委員会企画）では「ホワイトニングによる歯の色調変化（仮）」と題し

て本学会理事の石川明子先生にご担当いただくことになりました。講習会 2（認定士委員会企画）では、「ハイパースペクトルカメラの可能性」について販売サイドのコニカミノルタ社様（講師未定）から、その機能説明とデモンストレーションを実施していただく予定です。

2022 年度初頭は、2 年以上蔓延している COVID-19、ロシア軍のウクライナ侵攻など、不安定な社会情勢が続いておりますが、一刻も早く安寧な日々が戻り、以前のように一堂に会して語り合えることを切に願っております。現地開催では、ウィズコロナの時代として十分な感染防止対策のもとで実施させていただきますので、より多くの皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。



“特集” ～私の研究室紹介～



今号からの“特集”として、「私の研究室紹介」を企画いたしました。大学や研究所などにご所属の会員の先生方から所属先の紹介記事をお寄せいただくことで、会員同士の交流や共同研究のきっかけにな

ればと考えております。お忙しい中、第 1 回の原稿をご執筆いただいた市村葉先生に心より感謝申し上げます。

（ニュースレター編集委員長 金子 潤）

明海大学歯学部 機能保存回復学講座 保存治療学分野 市村 葉

当講座は、保存修復学講座として初代 片山伊九右衛門教授が立ち上げ、色彩研究に大いに貢献してきた講座である。その後、片山直教授から現在の横瀬敏志教授に講座を引き継いでいる。現在は歯内療法学と保存修復学を担当する総合講座になっている。横瀬敏志教授を中心に、教育、臨床、研究を行っており、医局には有給者、専攻生、研修医を含め、総勢 20 名が在籍している。学部では、いわゆる保存修復、歯内療法を教える講座として、2 科目分の講義、実習、臨床実習を受け持ち、医局員一同が一丸となって教育

に貢献している。臨床では、歯内療法、保存修復治療をメインに担当医制にて患者の診療を行っている。診療室にはマイクロスコープや各種レーザーを設置し、歯科医師と共に、歯科衛生士、歯科技工士との連携をはかり、チーム医療により様々な難症例や外科的歯内療法、インプラント埋入などのオペに対応している。また、定期的にカンファレンスの場を設け、教授をはじめ、誰にでも症例について相談できるオープンな環境づくりもあり、活発な意見交換がなされている。

当講座の勉強会やハンズオン研修会には、他講座や歯科衛生士の参加も多く、講座や分野、職種を超えて楽しく学べる雰囲気があり、歯科医師と歯科衛生士、歯科技工士が情報を共有することによって、双方の意見交換が活発になり、より良い医療を速やかに患者に提供することが出来るというメリットを遺憾なく発揮している。

研究では、歯髄組織の再生療法の開発、骨の再生療法、レーザーの歯内療法領域への応用、酸化チタンを

応用したフリーラジカルによる殺菌作用、漂白や東洋医学など、様々な基礎研究から臨床への応用を目指しており、多くの国際雑誌に報告している。いくつかの研究では、医局員、院生だけでなく歯科衛生士とのコラボレーションも積極的に行い、共に学会参加・発表をすることによって大学というアカデミックな環境を存分に活用し、臨床、研究、教育に速やかに還元できる体制も整っている。何より、医局を中心に誰でも楽しく学ぶことができる講座である。



2021 年度 各種委員会報告

表彰委員会（委員長 平山 聡司）

日本歯科色彩学会では、優れた学術領域における業績に対して学会賞として表彰すると共に特に若手歯科色彩研究者育成のために奨励賞を設けています。表彰委員会では、本学会の機関紙「歯科の色彩」第 27 巻 第 1 号に掲載された原著論文 3 編と第 28 回日本歯科色彩学会学術大会における口頭発表 5 演題について学会賞、奨励賞の選考をいたしました。その選考結果は以下の通りです。

<原著論文表彰選考>

【学会賞】

論文名：アパタイト光触媒配合歯磨剤を用いた
ホワイトニングシステムの開発

著者：湯浅直樹、亀水秀男、越智葉子、日下部
修介、高垣智博、二階堂徹、堀田正人

【奨励賞】

該当なし

<発表表彰選考>

【学会賞】

演題名：着色したバルクフィルコンポジットレ
ジンの再研磨による改善効果

演者：神谷直孝、寺中文字子、藤田（中島）光、
谷本安浩、平山聡司

【奨励賞】

演題名：義歯安定剤と除去方法に関する研究
筆頭演者：柿谷笑菜

原著論文の表彰において第 27 巻も奨励賞に該当する論文はありませんでした。論文奨励賞の対象は、論文受理時に筆頭著者の年齢が 37 歳未満であることが条件となっています。一方で学術大会における発表奨励賞の対象は、筆頭演者の年齢が 30 歳未満であることが条件です。若手研究者の論文投稿や発表をお待ちしています。

規則(会則)検討委員会（委員長 新海 航一）

この委員会メンバーは 1 名です。活発に動く委員会ではありませんが、本学会の会則をはじめとして認定士制度規則、認定士制度施行細則、表彰選考に関する会則および利益相反（COI）指針等、各種規則の改定案が出された場合、その内容をチェックする重要な委員会です。

現状としては、倫理・利益相反委員会から上程された倫理審査委員会規程（案）と倫理審査委員会規則

（案）について倫理・利益相反委員会とともにブラッシュアップしており、これらの制定にあたっては会則の一部を修正しなければならないため、会則の改定案も作成中であります。

2020 年度 12 月にこれらの原案が上程されてから 1 年以上経過していますので、できるだけ早いうちに完成して次期総会で承認を得たいと考えております。

講習会委員会（委員長 平山 聡司）

第 29 回学術大会において講演会委員会が企画する講習会 1 について、下記のように開催すべく準備をしております。

演題：ホワイトニングによる歯の色調変化（仮）
演者：石川 明子 先生（石川歯科医院・元日本歯科大学附属病院総合診療科准教授）

石川先生は、本学会の理事であり、日本歯科審美学会では常任理事として長年にわたり歯科色彩の分野でご活躍されています。多くのご研鑽の中には、歯科審美に対する意識調査や学生を対象にした色調選択実習の有効性など歯の色彩に興味を持たせる教育プ

ログラムの開発など、とてもユニークな研究にも取り組んでいます。さらに臨床研究として歯のホワイトニング効果に関する症例も数多く、ホワイトニングに関する豊富なご経験から歯科色彩学会員に対して示唆に富む講習会になると期待しています。

見学会委員会（委員長 中澤 章）

【ヨシダ見学会報告】

去る2月6日、2021年度の見学会が開催されました。昨年度、東京都墨田区にあるヨシダ製作所ならびにヨシダサポートセンターを見学する計画でしたが、コロナ禍で延期となり、今回オンラインでの開催となりました。当日は約40名の参加を得て、ヨシダ製作所ならびにヨシダサポートセンターの紹介をしていただき大変好評でした。概略を報告させていただきます。

Dental Digital Solution 今、何が起きているのか、これから何が起ころのか？と題して、まずはヨシダの最新機器として、歯科領域で日本発世界発のOCT（光CT）装置である『オクティナ』についての

解説でした（図1）（図2）。こちらは3月4日からの日本デンタルショーで正式発表の予定であり、いち早いお披露目となりました。続いてCAD/CAMマーケットの現状と運用の特徴、取り扱いCAD/CAM機器である口腔内スキャナー、模型スキャナー、ミリングマシン、3Dプリンターの解説がありました。とくにCTとIOSの連携とオープンシステムを強調されていました。さらにデジタルの講習やリモートサービス、アフターケア、技工製作を請け負うヨシダサポートセンター（図3）の紹介などがありました。

質疑応答も活発に行われ、それぞれ丁寧にお答えいただきました。今回の見学会はオンラインならではのGoogle formを使用した事後のアンケートを実施し、その後の質問についても回答をいただきましたので、以下に掲載させていただきます。

質問① 以前、インプラントの埋入方向についてのプローブ開発に携わっていたことがありますが、ぜひ御社で製品化していただきたいものです。

➤【回答】 その節はご協力頂き、誠に有難うございました。頂きましたご意見はオクティナの今後の



図1 オクティナ本体



図2 オクティナ撮影画像例

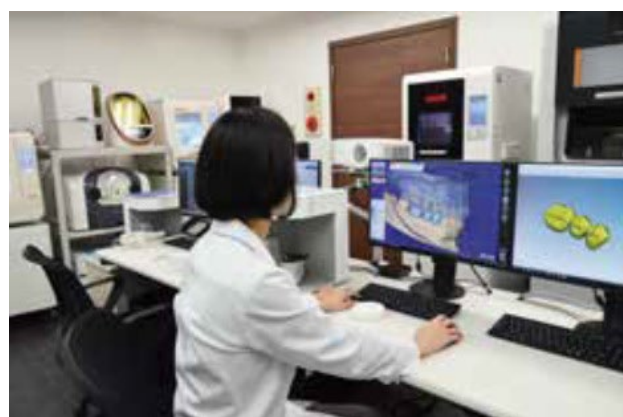


図3 サポートセンター

課題として検討していきたいと考えております。

質問② 画像の印刷はプリンターに接続すればできますか？

➤【回答】 オクティナに、直接プリンターを繋ぐことはできませんが、画像サーバーに OCT 画像を転送後、画像サーバーにインストールされているビューアプログラムから印刷することができます。

質問③ 読影し易い断層画像を作成するための今後の改良計画、開業医が手が届く範囲の価格設定の見直しについて、許容できる範囲でお願いします。

➤【回答】 貴重なご意見を頂き、誠に有難うございます。読影しやすい機能の実現や画像アトラスの制作も検討しております。また開業医の先生方に購入して頂けるような価格設定が実現できるよう、検討していきたいと考えております。

質問④ オクティナのヘッド部分の消毒はどうするのでしょうか？セミクリティカルの分類になるかと思いますが、高水準消毒でしょうか、あるいは中水準消毒でしょうか？質問させていただきましたが、診断が難しいため AI の活用が今後の課題かと思えます。

➤【回答】 オクティナのヘッドは滅菌処理が可能です。使用後はノズル部分を手順に従い取り外し、洗浄後、高圧蒸気滅菌処理となります。AI に関するご意見を頂き、誠に有難うございます。より簡単に診断できる方法を AI の利用も含めて検討中です。頂きましたご意見はオクティナの改善に役立てて行き

たいと考えております。

質問⑤ レントゲン室に移動しなくてもチェアサイドで診断ができるのは大きなメリットかと思えます。う蝕検知時、エンドモード等、使用場面を細分化して、使いやすい画像変換をメモリーしておく、実際の診療が革新的に楽になりますね。貸出等の対応していただくとありがたいです。(購入できないと思うので)

➤【回答】 貴重なご意見を頂き、誠に有難うございます。診療の流れにおけるオクティナの導入方法に関しては、臨床医の先生方のご意見をお伺いしながら、今後更に勉強させて頂きたいと存じます。その場面毎の画像変換メモリー機能に関しても今後の課題と考えております。また貸出等に関しても、先生方のご意見をお伺いしながら、検討していきたいと考えております。

アンケートの結果、多くはオンラインでもよかったという意見でしたが、一部にはやはり実機を見てみたかったという意見もありました。今回はコロナ禍でやむを得ない開催であり、委員会ではコロナ禍が収束次第、実地開催をしたいと企画をはじめています。なお、興味を持たれた方は日本デンタルショーのヨシダブースをご覧ください。

最後になりましたが、周到な準備をして開催していただいた(株)ヨシダの三井隆男氏、(株)ヨシダ製作所の千田真弓氏ならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。

国内渉外委員会 (委員長 市村 葉)

コロナ禍が終わる気配もなく、変異株が次々現れ、オミクロン株まできている状況です。足掛け3年もこの様な状況で、対面での学術大会、見学会の中止や延期が続いています。インターネット環境の発展により、Web 会議が常識になってきていますが、やはり限界も見えてきています。それまで当然のように行われていた対面での会合の利点が浮き彫りになった感があります。特に、渉外関係は、私の力不足もありますが、渉外委員会の開催もなく殆ど休止状態に

なっています。そこで、今回は、新たな渉外活動の方法について考えてみました。

国内移動も県をまたぐ移動は自粛傾向にあり、ましてや海外移動は実質困難な状況にあり、従来の渉外活動が難しくなっています。しかし、それまではちょっと手抜き感に思われがちな、メールやライン、Zoom でのコンタクトが常識化し、簡単な情報交換であれば、いつでもどこからでも繋がるようになってきています。他学会の Web 学術大会や研修

サイトを覗く機会は確実に増えました。実際、いくつかの学会では、参加者の確保はできているようで、対面でなかったからといって極端に参加人数が減ったという話は今のところ聞こえてきません。Web上で完結する“渉外”もあるのではないかと考えます。先日の見学会は、久々に皆様のお顔を拝見して参加出来たこともあり、五感を刺激され有意義でありました。データで保管できる内容であれば、見学会、研修会、学術大会の一部をトピックス的にして、『歯科色彩学会』として定期的に発信できれば効果的ではないだろうか、と考えました。また、過去に好評だった学会発表や、見学会の内容の再編集、再放送のような

ことができれば、本学会の優良な宣伝および渉外活動の資料になると思われます。会員以外には部分的な配信にするなど制限を設け、差別化を図るなど制約が必要になるとは思いますが、より多くの方が歯科色彩学会を知るきっかけになるのではないかと考えられます。また、歯科色彩学会員以外の参加により、新しい発見や、すそ野の広がりにもなり、渉外の目的である、外部との繋がりという面で、今までにない展開が期待出来るのではないのでしょうか。

今後の予定として、対面での学術大会の開催が実施されたときに、渉外委員会の開催を考えています。委員の先生方、宜しくお願い致します。

機関紙編集委員会 (委員長 堀田 正人)

春の気配を感じる季節になりましたが、オミクロン株による感染急拡大は全国各地に広がっております。早く、平穏な日常に戻れることを願っております。

さて、2019年度に機関紙編集委員長を拝命し、3年が経ちました。今年度3月31日発行予定の機関紙「歯科の色彩」第28巻第1号は昨年11月12日に投稿論文が締め切られ、総説論文2編、原著論文3編が昨年の12月までに査読、再査読を終え、印刷所に出稿されました。本年の2月に初校が刷り上がり、3月31日には予定通り、発行され、4月にお手元に届くことになっております。

我々機関紙編集委員は査読者、編集者として「歯科の色彩」に携わっておりますので、今回のニュースレターにおいて、査読について少し話してみたいと思います。

査読の質(コメントの質)が学会誌の魅力を決める重要な要素になっていることは間違いないと思っています。まず、投稿者・読者の視点と編集委員・査読者の視点で要求事項の議論が必要だと思っています。また、査読は論文の質を担保するために行われるものですが、必ずしも査読者は全知全能かつ完全に公

正な知識人とは言えません。さらに、最終的に編集者がどのような観点から採否を決定したのかというプロセスが重要であるにも関わらず、すべて非公開であります。したがって、必ずしも投稿論文の公平性、中立性、再現性を担保するものとは言えず、現在の査読制度は非科学的判定方法であると言われても仕方がないような気がします。

このようなことから、出版と査読を切り離れた新しい査読制度が注目されています。情報化、ネットワーク化が進んだ現在、まず、先に投稿論文をオンライン上で公開(出版)し、その後、誰もがアクセスできる公開の場で査読を行うというものです。オープン査読を採用することで第三者が査読プロセスを検証することができるというものです。したがって、査読コメント等も学術刊行物の一つとなりますので、投稿者のみならず、献身的で時間と労力をかけた査読者・編集者も報われ、貴重な知見が埋もれるようなこともなくなるのではないかと考えています。このオープン査読制度、会員の皆様はどのように思われるのでしょうか?ご意見をお聞かせ頂きたいと思っています。

認定士委員会 (委員長 中山 友克)

認定士委員会では、認定士資格の審査や制度運営

を行うと共に、学術大会「講習会2」の企画・運営を

担当しています。

第 29 回学術大会では、コニカミノルタジャパンよりハイパースペクトルイメージング（紫外線～可視光線～近赤外線などの広い波長帯の情報を細かく分光イメージングする技術）について講演いただく予定です。本講演が歯科色彩の分野でご活躍されている先生方のご研究に資することができるよう準備し

ています。

また、認定士資格取得の申請も随時受け付けておりますので、まだ取得されていない先生方もぜひ取得していただき、歯科色彩学の高度な研究と水準の維持向上を図っていただければ会の発展にもつながりますので、ご理解、ご協力の程よろしくようお願い申し上げます。



学会事務局よりお知らせ

幹事 鈴木 雅也

(日本歯科大学新潟生命歯学部 歯科保存学第2講座)



初めは戸惑うことが多かった「オンライン」の会議やセミナーも、半ば強制的に普及したことによって日常的に使用するツールとなりました。また、「オンライン」ツールの利点・欠点が少しずつわかってくるようになり、使いやすさも日々改善されているのを実感いたします。今後は「対面」と「オンライン」の2つをうまく使い分けながら学会運営を行って参りたいと考えておりますので、会員の皆様からも「オン

ライン」の活用方法についてご意見をいただけますと幸いです。

新規入会の方法、住所やメールアドレスの変更、退会につきましては学会メールアドレス (jacd@ngt.ndu.ac.jp) にお知らせ下さい。また、何かご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。



【編集後記】

ニュースレター編集委員会では、年に2回(9月末および3月末)のニュースレター発行を目標に、記事の執筆依頼、原稿回収、紙面編集、発行作業を行っています。委員長の不手際で執筆のご依頼から原稿締切りまでが短期間になり、大変ご迷惑をおかけしております。このような状況にもかかわらず、原稿をお寄せいただいた会員の皆様には心より感謝申し上げます。

特集記事として、前号(No.67)まで連載して好評を博していた“特集”コロナ禍における奮闘記!を残念ながら終了し、今号から“私の研究室紹介”と題して会員が所属する各研究室の紹介文を連載すること

といたしました。原稿依頼がありましたら、ぜひ紹介文をお寄せいただきますようお願い申し上げます。また、毎年3月末発行のニュースレターでは、1年間の委員会報告も掲載していきます。会員の皆様に学会活動の現況をお伝えできるよう工夫を凝らしていく所存です。

今年度の第29回総会・学術大会は、新海航一会長が大会長となり、7月30・31日に新潟市で開催される予定です。今年こそは対面での開催が実現し、会員の皆様と現地でお会いできることを楽しみにしております。

(金子 潤)



日本歯科色彩学会ニュースレター編集委員会 金子 潤、中山 友克、小澤 有美